

講演会型＋体験活動参加型（小中学校）

| | |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校名等 | 中津川市立福岡中学校区1中学校4小学校 |
| 実施日時 | 平成30年10月17日（水）19:00～21:00 |
| 会場 | 中津川市立福岡総合事務所 世代交流室 |
| 参加人数 | 保護者と学校職員 46名 ライオンズクエスト会員 16名 |
| 学習課題（分野） | ライフスキル「家族の役割とは」 |
| 運営者の願い | 福岡中学校区は、田瀬小、下野小、福岡小、高山小の4小学校を卒業した児童が、福岡中学校へ進学する。そのために、4小学校1中学校の保護者が仲良くなり、共に子ども達を見守り育てていくことを目指して開催した。 |

学 習 の 内 容

<これまでの流れ>

福岡中学校区では、4つの小学校から1つの中学校へ進学するため、保護者が全員同じ中学校の保護者となる。そのため、5小中学校の保護者が仲良くなり共に子どもを見守っていくことが、子ども達の発達段階において大切であることを踏まえ、昨年度から合同家庭教育学級を開催している。

会場を、どの学校の保護者も集まりやすい公民館や総合事務所とし、昨年度は年間5回の開催、今年度は4回開催している。

<講話の内容>

講 師：外川 澄子 氏（ライオンズクエスト認定講師）

テーマ：「家族の役割とは？ “コミュニケーション” と “褒める” を通して」

- ・良い集団の条件とは
互いをよく知り合う 自由に発言できる ルールがある 役割分担 思いやり
- ・ゲームを取り入れながら、家庭で子どもに育てたい能力について、3人グループで交流
 話し手、聞き手、聞き方の観察者の3つの役割分担をして、ローテーションし、聞き方のスキルアップを図る。
- ・役割演技を取り入れ、聞き方を具体的に考え合う。
- ・聞き方の3つの重要ポイント
 話し手に注意を向けていることを態度で表す。
 相手が何をどのように話しているか理解して聞く。
 相手の言ったことを繰り返したり、質問をしたりして聞く。
- ・家庭で子どもに育てたい能力は「自信」。問題を起こす子どもは、自尊感情が低い。
- ・子どもの失敗をがみがみ怒ってしまうのではなく、部分を褒める チームで褒める 時間で褒める
- ・叱るより、具体的な事実を言葉で褒める。



<参加者の感想>

- ・自分の子育てを振り返る良い機会になった。子どもが少しでも自信が持てるような声かけを心掛けたいと思った。
- ・子ども達に求めるばかりではなく、子ども達が自ら考えて行動できるように、親が子どもに向き合う姿勢や言動を見直すきっかけとなった。
- ・話を聞くというのは、大人は聞いているつもりでも、相手に伝わってなければ意味がないと思った。早速、明日から子どもの目を見て話を聞いて、いっぱい褒めてあげたいと思った。



円くなって講話を聴く



元気の出るゲーム「エネジャイザー」

<小中の連携>

小学校から中学校へと続く子どもの学びの継続を考え、「5小中学校の保護者は一つ」という思いから、合同で家庭教育学級開催している。

保護者同士が仲良くなることは、子どもの安心感につながる。

<交流の工夫>

グループで交流するとき、まずエネジャイザー（元気の出るゲーム）を取り入れ、挨拶→握手→自己紹介→肩をたたく→ハイタッチと繰り返し、初めて顔を合わせた者同士が、すぐに打ち解け、その後の交流が和気あいあいと進んだ。

<家庭につなぐ>

子どもと母親という設定で役割演技を行い、子どもが学校から帰ってきたときの母親の受け答えの例を示すことで、具体的に良い聞き方を学ぶことができた。

参加者が、それを家庭へつなげ、今日から、子どもの話を聞いて具体的に褒めようという気持ちになれた。

